

## 全学向け日本語プログラム2005年度

李 澤 熊

全学向け日本語プログラムは、名古屋大学に在籍する留学生（大学院生、研究生など）、客員研究員、外国人教師などを対象に、日常生活や大学での研究生活に必要とされる日本語運用能力の養成を目指して開講されている。

現在、名古屋大学では1200名を越える留学生を受け入れており、留学生センターではそれぞれの多様なニーズに応えられるよう、今までも日本語プログラムの改善、拡充に努めてきた。しかし、国際交流のさらなる進展に伴い、今後日本語教育へのニーズはさらに多様化するものと予想される。

そこで留学生センターでは、まず既存の日本語プログラムを見直し、効率を図るとともに、全学留学生を対象とする全学向け日本語講座の拡充計画を立案し、実施した。

以下、主な変更点について概説する。

### 1. 2005年度の概要

1) 本学と海外の学術機関との学術交流締結件数が年々増え、学生交流も活発となり、毎年留学生数も着実に増加してきている。短期留学プログラムで受け入れた留学生は、従来1日1コマの「短期留学生日本語コース（NUPACE）」を受講し、自国の大学で単位を取得してきた。しかし、この学生の中には日本語学習にさらに時間をかけ、高いレベルに到達したいと希望するものもいた。また、これまでは短期留学生日本語講座（NUPACE）は3レベルしかなかった。

また一方、各学部・研究科等に所属する大学院生・研究生、研究員、外国人教員は、1週間に4～3コマ開講される「全学向け日本語講座」を受講してきた。每期多くの登録者がいるが、クラス数が十分でないため、クラス人数が多くなることもしばしばあった。

このように従来は、留学生の受け入れの種類によって日本語コースが決まっていたため柔軟に対応

するのが困難な場合があった。今年度から、この点を改善するため、「短期留学生日本語コース」と「全学向け日本語講座」をあわせ、1日2コマ日本語を勉強する「集中コース」4レベルと1日1コマの「標準コース」8レベル（中上級レベル新設）を提供し、学習者のレベルや希望に合わせて選択ができるようにした。

	集中コース	標準コース
対象者	日本語研修生（希望者）、短期留学生、各研究科大学院生・研究生	短期留学生、各研究科大学院生・研究生、研究員、外国人教員
1週当たり時間数	20時間（1日2コマ、週5日間）	10時間（1日1コマ、週5日間）
レベル数	4レベル（初級～中級）	8レベル（初級～上級）

### 2) オンライン日本語コース（Online Japanese Course）

日本語の授業に出席することが時間の関係などで難しい留学生のために、Web上で教材を配布し、学習者からの解答に対しフィードバックを返すというものである。受講者は学内LANで日本語入力可能なものに限る。登録者にはパスワードを発行するので、詳しくは留学生センターホームページを参照してほしい。

### 3) 漢字コース（Kanji）

なかなか一人では勉強が進まない、つくじけてしまいそうになる漢字学習を少しでも支援するのが目的である。初級・中級といったレベルに関わらず、誰でも受講することができる。漢字100字、300字、1000字の3レベルを設ける。

### 4) 入門講義（Introductory Lectures in Japanese Studies）

日本文化論、国際関係論、言語学など専門分野をやさしく解説する入門講義形式で授業を行い、日本語運用能力を高め、日本を理解するのを助ける。講

義はすべて日本語で行っているため、日本語能力試験2級程度の日本語力を備えていることが条件となる。

- 5) 例年と同様、初級Ⅱ以上を希望する受講者を対象にクラス分けテストを実施し、日本語能力レベルに応じたクラス編成をした。なお、今年度からはクラス分けテストの会場を2つ設け、上級レベルを希望する者については、別途にテストを実施している。
- 6) 各クラスにおいて、出席および成績の管理を行い、授業終了時に出席率および成績から合格者を発表し、合格者は次期進級する際クラス分けテストを免除している。再履修者についても同様である。ただし、上級Ⅰ、Ⅱにおける再履修者は定員を超える申し込みがあった場合、受講を制限することにして

いる。

- 7) 全学向日本語プログラムは、基本的には単位取得をする授業ではないが、短期交換留学生に関しては、別途に単位認定基準を設け、単位認定を行った。
- 8) 昨年度に引き続き、FD活動の一環として学生によるコース評価をレベル・科目別に行った。

## 2. 期間と内容

- 1) 前期／後期全学向日本語プログラム

前期開講期間：2004年4月14日(木)

～7月15日(金)12週間

後期開講期間：2004年10月17日(月)

～2005年1月27日(金)12週間

開講クラスと内容：

コース科目	レベル・クラス数	目標	教材
標準コース (standard)	初級Ⅰ SJ101 2クラス	日本語がほとんどわからない学生を対象に、日本語文法の初歩的な知識を与えると同時に日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字150字, 単語数800語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol.1</i>
	初級Ⅱ SJ102 2クラス	初級Ⅰ修了程度のレベルの学生を対象に、さらに基礎日本語の知識を与えると同時に日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字150字, 単語数1000語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol.2</i>
	初中級 SJ200	初級Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項の運用練習を行うとともに、中級レベルで必要となる漢字力、読解力を含め、日本語運用能力の基礎を固める。(漢字100字, 単語数800語)	留学生センター開発教材
	中級Ⅰ SJ201 2クラス	初中級修了程度のレベルの学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、4技能全般の運用能力を高める。(漢字150字, 単語数1200語)	『現代日本語コース中級Ⅰ』
	中級Ⅱ SJ202 2クラス	中級Ⅰ修了程度のレベルの学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、大学での勉学に必要な日本語能力の基礎を固める。(漢字150字, 単語数1200語)	『現代日本語コース中級Ⅱ』
	中上級 SJ300	中級Ⅰ、Ⅱで学んだ学習項目を実際の場面で使えるよう運用練習を行い、上級レベルの日本語学習の基礎を固める。(漢字200字, 単語数1000語)	留学生センター開発教材
	上級Ⅰ SJ301 2クラス	中上級修了程度の学生を対象に、大学での研究や勉学に必要な口頭表現、文章表現の能力を養う。(漢字200字, 単語数1500語)	留学生センター開発教材
上級Ⅱ SJ302 2クラス	上級Ⅰ修了または日本語能力試験1級程度の日本語能力を有する学生を対象に、大学での研究に必要な口頭表現、文章表現の高度な能力を養う。(漢字200字, 単語数1500語)	留学生センター開発教材	

集中コース (intensive)	初級Ⅰ IJ111	日本語がほとんどわからない学生を対象に、日本語文法の初歩的な知識を与えるとともに日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字300字, 単語数1800語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vols.1&amp;2</i>
	初級Ⅱ IJ112	標準コース初級Ⅰ修了程度の学生を対象に、日本語文法の基礎を固め、日常生活だけでなく勉学に必要な基礎的日本語運用能力を養う。(漢字250字, 単語数1800語)	<i>A Course in Modern Japanese, Vos.2</i> および作成教材
	中級Ⅰ IJ211 2クラス	集中コース初級Ⅰまたは標準コース初級Ⅱ修了程度の学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、4技能全般の運用能力を高める。(漢字250字, 単語数2000語)	『現代日本語コース中級Ⅰ』および留学生センター作成教材
	中級Ⅱ IJ212	集中コース初級Ⅱまたは標準コース初中級修了程度の学生を対象に、4技能全般の運用能力を高め、研究に必要な日本語能力の基礎を固める。(漢字300字, 単語数2400語)	『現代日本語コース中級Ⅰ・Ⅱ』
漢字コース (kanji)	漢字Ⅰ Kj100	漢字の基礎から始めたい学生を対象に、日本語能力試験4級の漢字約100字を習得する。	『漢字マスター Vol.1 4級漢字100』
	漢字Ⅱ Kj300	漢字100字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験3級程度の漢字300字を習得する。	『漢字マスター Vol.2 3級漢字300』
	漢字Ⅲ Kj1000	漢字300字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験2級程度の漢字1000字を目標に学習する。	『漢字マスター Vol.3 2級漢字1000』
入門講義 (introductory)	次の専門分野を日本語でやさしく解説する講義形式の授業である。日本語運用能力を高めるとともに、日本理解を助ける科目である。標準コース中上級レベル以上の日本語能力が受講資格である。		
	国際関係論Ⅰ・Ⅱ IR200	グローバルゼーションをキーワードとして、いくつかの認識方法を手がかりに、現代国際環境の変容を見る。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
	日本文化論Ⅰ・Ⅱ JC200	日本の社会や文化の特徴をより深く理解するために、韓国を比較の対象として取りあげ、東アジアにおける「近代」(西洋文明との出会い)の意味を考える。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
	言語学Ⅰ・Ⅱ GL200	言語学の一分野である意味論(認知意味論を含む)について学ぶ。特に、現代日本語を素材として、類義表現・多義表現などの分析方法を身につけることを目指す。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
	日本語学Ⅰ・Ⅱ JL200	主に日本語教育で問題となる文法項目を取りあげ、整理・検討することによって、文法の基本的知識を身に付けることを目標とする。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
オンライン・日本語コース (online)	中上級読解作文 OL300 オンライン漢字 OLkj	中級レベルを修了した学習者を対象に、400字～600字程度の文章の理解とその文章の要約や関連作文を課し、文章表現能力を養う。初中上級レベルの学習を修了した学習者を対象とした漢字のクラスを開講している。毎週1回オフィスアワーを開設する。	WebCTVista 版日本語教材

## 2) 夏季集中講座

開講期間：2004年7月25日(月)～8月9日(火)12日間

開講クラスと内容：

開講レベルは、初級Ⅰ、初級Ⅱ、初中級、中級Ⅰ(2クラス)、中級Ⅱ(2クラス)、中上級、上級Ⅰの7レベル・9クラスであった。今年度も、木浦大学から15名の参加があった。クラス配置は、初級Ⅱ4名、

中級Ⅵ名、中級Ⅱ4名、中上級1名であった。

初級、初中級、中上級の使用教材、授業内容は前期と同じであった。中級Ⅰ、Ⅱの教材は市販の『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』を使用した。上級Ⅰでは市販の『上級で学ぶ日本語』(研究社)と生教材を使って、口頭表現、文章表現の能力を養うことを目指した。

3) 春季集中講座

開講期間：2005年2月13日(月)～2月28日(火)12日間

開講クラスと内容：

開講レベルは、初級Ⅰ，初級Ⅱ（2クラス），初

中級（2クラス），中級Ⅰ，中級Ⅱ（2クラス），中  
上級，上級Ⅰの7レベル・10クラスであった。使用  
教材，授業内容は夏季の授業に準ずる。

3. 受講生数

1) 標準コース

	前 期			後 期	
	登録者数	修了者数		登録者数	修了者数
初級Ⅰ（2クラス）	32	26	初級Ⅰ（2クラス）	41	33
初級Ⅱ（2クラス）	41	35	初級Ⅱ（2クラス）	27	19
初中級	23	17	初中級	25	15
中級Ⅰ（2クラス）	46	36	中級Ⅰ（2クラス）	44	25
中級Ⅱ（2クラス）	49	40	中級Ⅱ（2クラス）	40	27
中上級	25	16	中上級	15	12
上級Ⅰ（2クラス）	36	25	上級Ⅰ（2クラス）	28	14
上級Ⅱ（2クラス）	26	15	上級Ⅱ（2クラス）	29	13
計	278	210	計	249	158

2) 集中コース

	前 期			後 期	
	登録者数	修了者数		登録者数	修了者数
初級Ⅰ	10	10	初級Ⅰ（2クラス）	28	28
初級Ⅱ	10	10	初級Ⅱ	21	16
中級Ⅰ（2クラス）	17	17	中級Ⅰ	16	14
中級Ⅱ	17	15	中級Ⅱ	18	15
計	54	52	計	83	73

3) 夏季・春季コース

	夏 季			春 季	
	登録者数	修了者数		登録者数	修了者数
初級Ⅰ	9	7	初級Ⅰ	19	12
初級Ⅱ	25	24	初級Ⅱ（2クラス）*	21	17
初中級	21	13	初中級（2クラス）	43	30
中級Ⅰ（2クラス）	28	19	中級Ⅰ	22	17
中級Ⅱ（2クラス）	21	14	中級Ⅱ（2クラス）	21	16
中上級	13	10	中上級	19	12
上級Ⅰ	18	11	上級Ⅰ	13	9
計	135	98	計	158	113

[注] \*1クラス（初級Ⅱ a）は，日本語研修生（6ヶ月）が継続して学習が行えるように設定したクラスである。  
日本語研究コースで既に学んだ初級Ⅱの内容を復習できるようにシラバスが作られている。教鞭をとった  
のは，大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻の鷲見幸美助教授の指導を受けた同専攻の院生であった。

#### 4. 学生によるコース評価

昨年度と同様に授業改善と教授能力の向上を図るために、前期と後期に受講者を対象に、コース内容に関するアンケートを実施した。回答者数は前期と後期、それぞれ139名(短期交換留学生を含む)と80名である。アンケートの内容はレベルによって異なるが、各レベルに共通して尋ねた質問のうち3つの項目について学生の回答を報告する。

質問1：(授業環境) クラスの人数は適当でしたか。

質問2：勉強したことがよく理解できたと思いますか。

前期 (短期交換留学生を含む)

	Q 1	Q 2	合計
そう思う	97	61	58.3%
どちらかといえば「はい」	17	47	23.6%
どちらとも言えない	6	23	10.7%
どちらかといえば「いいえ」	5	3	3%
そう思わない	12	0	4.4%
回答者合計	137	134	100%

後期 (全学向け留学生のみ)

	Q 1	Q 2	合計
そう思う	55	34	57.8%
どちらかといえば「はい」	11	29	26%
どちらとも言えない	5	7	7.8%
どちらかといえば「いいえ」	4	4	5.2%
そう思わない	5	0	3.2%
回答者合計	80	74	100%

以上の結果から分かるように、全般的に良好な評価結果が得られた。ただ、今年度からは「短期交換留学生コース」と「全学向け日本語コース」を合わせた形でコースを運営したためいくつか問題点も出てきた。例えば、単位取得を目的とする「短期留学生」と単位取得を目的としない全学向け留学生が同じクラスになったため、受講者の出入りが激しく、クラスの雰囲気乱すような場合もあった。今後、このようなニーズの違う学生たちに対して、どのように対応していけばいいか、さらに工夫が必要であろう。

質問3：日本語の授業について意見やアドバイスがあったら書いてください。

この質問には様々な回答があったが、全般的に寛大な評価が多かった。しかし、中には以下のような要望も出ており、今後さらなるプログラムの改善に努める必要があると感じた。

- ・教科書に古い内容が多いので、新しいのに改訂してほしい。
- ・自分の専門の授業と重ならないように時間割を組んでほしい(工夫してほしい)。
- ・日本の歴史や文化などにも触れてほしい。
- ・学生の出入りが激しいので(欠席、遅刻)、集中できない。